



Lesson 205

発想する！授業

生涯にわたって
社会のいたるところで学ぶための方法序説

「打ち合わせ」(対話) で得る「学び」、 「気づき」、「新たな発想」

安西 春樹

提案：「学び」、「気づき」、「新たな発想」のため、直接の対話の効果について考えてみませんか。

本連載の原稿を書いている4月現在、新しい年度が始まったところでもあり、連日「打ち合わせ」の機会を設けることが多くなっています。

年度前半の事業運営に関する打ち合わせ、また後半に予定している学習講座の講師依頼、協力依頼等々、講座の開催に向けての打ち合わせはもちろん、ボランティア活動についての相談、今後の事業予定等、組織内部、外部とも「打ち合わせ」という形で話をする機会が多いのがこの時期です。

本誌の読者の方々も、様々な立場で「打ち合わせ」に臨まれていることでしょう。

今回は、連日の「打ち合わせ」の中での気づきを書かせていた

だきます。

謝罪のための面会から

先日、ある分野のプロフェッショナルの方に時間をいただき、話をする機会を持ちました。

少し齟齬があるかもしれないが、ごく簡単に言うと、学習講座の講師依頼を進めている中で、こちら側の都合で依頼を白紙に戻すという不義理があり、先方から一度会って話を聞きたいとの要望に応えたものです。

直接の面会をさせていただき、反故に至る経緯の説明と謝罪をし、お叱りを受ける覚悟で先方のお宅へ伺いました。

すべて当方の都合によるもので、申し訳ない思いを抱きながら、約束の時間に訪問しました。

玄関先では、ご本人が出迎えてくださり、「どうぞおあがり下さい」と勧められるままに、普段、お仕事の準備でお使いの1室に案内されました。

はじめましての挨拶をする前

に、自ら紅茶とお菓子をご用意くださり、面会がはじまりました。

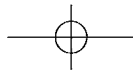
「コロナの状況も下火になりつつあるので、どうぞお気になさらないければ、マスクもお取りいだいて、お茶を召し上がりながらお話ししましょう」

「飲みながら食べながらお話した方が、本来のあなたとお話できると思いますので、どうぞ固くならずにお話ししましょう」

と、おっしゃってください、打ち合わせが始まりました。

年度初めの忙しいであろう中で呼び立ててしまい申し訳ないともお声がけいただきました。まず、今回の経緯をかいつまんでお話しし、無礼があったこととお詫びしました。

先方は、その業界の通例やご自身の仕事の進め方、また他の自治体などで受け持っている事業の例などをわかりやすく、丁寧に説明してくださいました。



今回の状況で困った点、今後に依頼する時のご要望などをお話していただきました。

そして、今後、事業への協力を望んで依頼をされるのであれば、「わたし」という人間を知っていただきたい。メディア等で見ているイメージはあってもいられないけれど、実際の「わたし」がどのような人間で、何を考えているのか、何ができるのか、こうして直接お会いして判断いただきたいとの旨をお話しされました。

同時に、私も「あなた」がどのような方で、何を望んでいるのか、ファクシミリや電話だけではどうしても伝わり難い、受け取り難いニュアンスもあると思うので、面倒かもしれないが直接会って、お話をした上で、お仕事を一緒にしたいと言葉をかけてくださいました。

時折、お茶とお菓子を勧めていただきながら、こちらの気持ちをほぐしていくような語りかけをしてくださり、話の内容は

多岐にわたっていきます。

ご自身の生まれや育ち、長年の仕事での苦労話、現在関わっている仕事や、講師として依頼されている活動、ご自身の教え子の活躍やコロナ禍での活動の影響、さらには、ギャラの話も包み隠さず、率直に真摯にお話ししてくださいました。

こちらの勝手なイメージ・先入観と違い、なんとも実直、謙虚にして、気遣いの方だと感じました。時間が過ぎるのを忘れるくらいお話も楽しく、時折の身振り手振り、所作も含め非常にあたたかい語りかけは、失礼ながら当初の「謝罪」を忘れてしまいそうになるくらいの感覚を持ちました。

「打ち合わせ」という名の授業時間

お話の最後に、さらに気遣いをいただき、

「こちらにいらした時と少しばかりお顔も硬さが取れたようです

ね。まだまだですが、表情が出るようになりましたね。」

「役所の方は往々に表情を出さないようにされる方が多くて、お仕事柄なのでしょうが、その癖が染みついてしまっている方が多いようです。今回、お越しいただいたのは、「わたし」のことを知っていたら、また「あなた」のことを知って、その上でお役に立てるようなら嬉しいということを理解してもらいたいと思っただけです。」

「『打診』ですとか、『検討』という文字面でなく、どんなに小さなことでも「わたし」が必要だと仰っていただけるなら、自分のできることで協力は惜しみません。」

と、今回の訪問では、建前でなく本音で話し合える環境を作ることが大切だという教えを「打ち合わせ」という限られた時間の中で授業をしていただいていたと思いました。

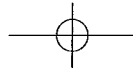
本誌2023年5月号の松田先生の提案の中で、「安易に講師

を依頼しないで：」「受講者のロールモデルとなる等身大の講師を探す」という項目にもつながることですが、今回の出会いを得たことで、まずは「人を知る」ところが大切で、基本となるのだと自戒も含め改めて認識しました。そのためには、「直接会う」、「直接話す」こと、建前だけでなくお互いの「想い」を交換し合う対話が大切なだと気づくことができました。

「今までの人生で、それはそれは多々困難がありました。わたしは常に性善説で人と向き合うようにしています。」

という言葉もその謙虚な姿勢も含めて、実体験として学ばせていただいたと思います。

テレビなどのメディアでよく拝見している方でしたので、直接話すことで自分の中に染みついてきたアンコンシャスバイアスに気づく出会いでもありました。



今後の学習講座の「打ち合わせ」での「気づき」

一方、講師交渉が進み、今秋に学習講座の開設が決まっている講師との打ち合わせも同時期にありました。

地域の歴史に関する講座の打ち合わせで、昨年はじめて開始した講座をブラッシュアップする相談をさせていただきました。

そこでは、急遽思い立ちまして、最近知り合うことがありました区の郷土資料館学芸員の方にも声掛けしまして、打ち合わせに同席いただき、お互いに紹介をさせていただきました。

打合せの目的は講座の組み立ての相談だったので、初対面同士の自己紹介で、思いがけない興味を引き出すことができました。

それぞれの専門の話や、今までのお仕事、現在の興味について等々、雑多な話の中で、新たな発想や、今後のアイデアなどに発展する話ができたとように思

います。

思い付きでの引き合わせで、先方も困惑したところがあったかもしれませんが、その後、登壇予定の講座とは別のつながりに広がり、短い期間の間に何度かやり取りをするまでに至っているようです。

私たちは、学習講座をきっかけに、仲間づくり（知り合いづくり）や興味関心の広がりを目指して生涯学習講座を企画・運営する立場ではありますが、一方で自身の「学び」も深めていくこと、資質を高めていくことを日々必要としています。

そのためには、講座の受講生と同様にあらゆる機会、あらゆる場所で「人」とのつながりを作る必要があるのではないのでしょうか。人と人をつなげる意識を持ち、率先してそのキーパーソンとなることも学習支援者としての資質向上を目指す上で大切だと感じています。

打ち合わせでの紹介（人と人とを繋げる）をきっかけに、新

たな交流ができあがったことは、今後につながる学習の地域資源として考えても嬉しい思いです。

直接の対話から「学び」を得る

今回は、学習講座の講師との打ち合わせとして2つの例を紹介しましたが、他にも地域のボランティアとの関わり、講座受講生との関わり、また職員間、指定管理職員との関わりなど、人と相對すること、

「気づき」「新たな発想」は、いたるところで生まれます。本稿を書かせていただく機会を持てたのも、初めて松田道雄先生に中央区の講座について相談し、打ち合わせをさせていただいたのがきっかけです。その際の様子については本誌バックナンバー2019年5月号「中央区生涯学習コーディネーター養成講座―「学び」の場をつくる活動を目指して―」で触れていますので、ここでは割愛しますが、人との直接のコンタクトは、誰にとっても大きな学習の場です。

現在は便利な世の中で、書籍はもとより、ネットやSNS、動画等のメディアなど、様々なコンテンツで他者を見る、知る、調べられるといった機会が多く持てます。

また、メールやZoomにより、わずかな時間で相手とコンタクトが取れます。便利な手段として使いこなしつつ、ただし、「知った気になっっている」という落とし穴に陥らないように、自身の目と感覚を持って「人」（他者）と直接に時間を共有する対話も大切なのではないのでしょうか。

ぜひ時間を惜しまず、自身の「学び」のためにも、直接の対話を時には心掛けてはいかがでしょうか。

安西春樹

（あんざい・はるき）

中央区区民部文化・生涯学習課

総括生涯学習指導員